

内閣総理大臣
麻生 太郎様
防衛大臣
浜田 靖一様

2009年8月3日
労働運動活動者評議会

辺野古への新基地建設断念を求める要請書

政府・防衛省は、在日米軍の再編をすすめるにあたって「沖縄の基地負担の軽減」を声高に叫んできました。在日米軍再編のロードマップ締結から3年、沖縄の基地負担は軽減されたのでしょうか？

世界一危険な基地といわれる普天間基地は今も使われており、新たに辺野古への新基地建設がすすめられています。防衛省は、今年3月環境アセス法に基づく環境影響調査を終え、「準備書」を沖縄県や関係自治体に送付しました。そもそも事前調査と称して珊瑚礁を壊し、「方法書」では、調査器材の設置場所を明らかにしないなどそのデタラメさは明白でした。3月末で「調査」を終了したと言いながら事後調査も行っています。さらに「準備書」に至っては、新たにヘリハットや軍港設備などが明らかになりました。「方法書」段階から決まっていたことを少しずつ小出しにするやり方は沖縄やヤマト労働者・人民をだます卑劣きわまりないやり方です。辺野古新基地建設を白紙撤回するべきです。

政府・防衛省は、辺野古の新基地建設のみならず、在日米軍再編のロードマップにしたがって①浦添新軍港建設②陸上自衛隊のキャンプハンセン共同使用③航空自衛隊の嘉手納基地共同使用などにより沖縄の基地負担を増大させています。

さらに、新たに与那国島への陸自配備を決め、年内に策定する次期中期防衛力整備計画に盛り込むことを明らかにしています。那覇市に司令部を置く陸自第1混成団（約1800人）を今年度末までに300人増強して旅団に格上げし、その後、旅団から与那国島に部隊を新たに置き、レーダーサイトも設置する、と報道されています。

沖縄は、米日両国による軍事占領といえる状態にあります。米軍再編交付金など基地を受け入れることによって金をバラまき、行政が受け入れざるをえない状態をつくりだしています。

私たちは、これ以上沖縄に米軍基地、自衛隊基地をつくることを許せません。まず、辺野古への新基地建設を断念し、米軍再編ロードマップを中止し、沖縄米軍も自衛隊も撤退することを要請します。

以上